

事業名	保健師等指導費			調書番号	45
細事業名	保健指導事業費	財務コード	086004		
担当部課室	福祉保健 部	医務 課	看護 担当 (内線)	3417	

事業の概要

実施期間	始期 S56 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	県(直営)		
目的	だれ(何)を対象に 保健福祉事務所、精神保健福祉センターに勤務する保健師	その対象をどのような状態にして 家庭訪問時に訪問衣を着用することにより、業務の円滑な遂行及び感染防止が図られている	結果、何に結びつけるのか 地域保健福祉の向上
内容	<p>【事業概要】 山梨県職員被服等貸与規程に基づき、家庭訪問を行う所属に在籍する保健師が家庭訪問を行う際に着用する訪問衣の購入と貸与。(貸与期間3年) 対象者:年度貸与対象者(貸与台帳)、新規採用者、異動に伴い保健福祉事務所、精神保健福祉センターに配属になった保健師 貸与数:夏用、冬用各1着(新規採用者は2着)</p>		

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

区分	指標	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
活動指標	訪問衣貸与者数	目標	20	26	22	21	21	22	17
		実績(見込)	10	15	13	13	15	15	
		達成率	50.0	57.7	59.1	61.9	71.4		
		達成区分	c	c	c	c	c		
成果指標	訪問時の訪問衣着用率	目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		実績(見込)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
		達成率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
		達成区分	b	b	b	b	b		
決算(予算) 単位:千円		845	735	571	461	665	855	642	

事業の評価(平成27年度の業績評価)

活動指標	b	評価	人事異動による貸与対象者数が想定より少なかったため、実貸与者数は目標値を下回ったものの、全ての貸与対象者に訪問衣の貸与を行うなど、予定どおりの活動量は確保した。
成果指標	b		訪問事例は、難病疾患患者、精神疾患患者、感染症(主に結核)等多岐にわたる。訪問時には訪問衣を着用し、円滑な活動が実施されており、意図した成果を上げている。

・「活動指標、成果指標の達成率」から事業の活動量、成果に係る一次評価の考え方を記載すること。
・指標がない場合や指標を補足する必要がある場合には、指標によらない成果を用いて記載すること。

見直しの必要性(平成29年度に向けた改善等の考え方)

県関与の必要性	判定	<input checked="" type="checkbox"/> 必要性が高い	<input type="checkbox"/> 必要性がある程度認められる	<input type="checkbox"/> 必要性が低い
	説明	<input type="checkbox"/> 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される <input type="checkbox"/> 事業の拡大や充実を求める意見・要望が増えている <input type="checkbox"/> 法令等により、県が実施することが義務づけられている <input type="checkbox"/> 県が実施しないと、県民生活に深刻な影響が生じる <input type="checkbox"/> 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で困難である。 <input checked="" type="checkbox"/> その他(山梨県職員被服等貸与規程に基づいている。)		
有効性(成果向上)	判定	<input type="checkbox"/> 大幅な成果向上が可能	<input checked="" type="checkbox"/> 成果向上が可能	<input type="checkbox"/> 成果向上は余り望めない
	説明	訪問衣の着用により、感染予防等が図られる。		
見直しの余地	判定	<input type="checkbox"/> 見直す余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある程度ある	<input type="checkbox"/> 見直す余地がない
	説明	<input type="checkbox"/> 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト削減を検討する余地がある <input type="checkbox"/> その他()		
その他	説明			
見直しの必要性	有	訪問時の感染予防の観点から訪問衣の貸与・着用は必要である。しかし、個別訪問のうち未熟児訪問は平成23年度より市町村へ移譲される等訪問衣着用の機会が減少していることから貸与期間について見直す必要がある。		

見直しの方向(平成29年度当初予算等での対応状況)

縮小	説明	貸与年数を3年に1回から5年に1回に変更する。(白衣と同様) 貸与年数を見直すことで、訪問衣貸与数が減少し、予算削減が可能。
----	----	---

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。